

国語 一一一	第三学年及び第四学年の内容 ことわざ	名前	年	組	番	取り組んだ日 月	日
-----------	-----------------------	----	---	---	---	-------------	---

次のことわざの意味としてふさわしいものをあとのアからオの中から選び、( ) の中に書きましょう。

- ① 急がば回れ ( ) ( )
  - ② 石の上にも三年 ( ) ( )
  - ③ 住めば都 ( ) ( )
  - ④ 負けるが勝ち ( ) ( )
  - ⑤ 善は急げ ( ) ( )
- ア 急ぐときには、遠くても安全な道を行く方が、危険な近道をするよりも結局は早く目的地に着くというたとえ。
- イ 相手に勝ちをゆずるほうが、最後は自分の得になることのとえ。
- ウ がまん強く努力すれば、必ず成功するというたとえ。
- エ よいと思ったことは、ためらわないですぐに行ったほうが良いというたとえ。
- オ 住みなれば、どんな場所であってもそれなりに住みよくなるというたとえ。

国語 一一二	第三学年及び第四学年の内容 ことわざ	名前	年	組	番	取り組んだ日 月	日
-----------	-----------------------	----	---	---	---	-------------	---

次のことわざの意味としてふさわしいものをあとのアからオの中から選び、( ) の中に書きましょう。

- ① 聞くは一時のはじ 聞かぬは一生のはじ ( ) ( )
  - ② 仏の顔も三度まで ( ) ( )
  - ③ 石橋をたたいて渡る ( ) ( )
  - ④ ねこに小判 ( ) ( )
  - ⑤ 飛んで火に入る夏の虫 ( ) ( )
- ア どんなにおとなしい人でも、何度もひどいことをされると、最後には怒るということのとえ。
- イ 自分から危ないことに飛び込んでいくことのとえ。
- ウ どんなに値打ちのあるものでも、その分からない者には意味がないことのとえ。
- エ とても用心深いことのとえ。
- オ 知らないことを聞くのはその時ははずかしいが、知らないままですると、一生はずかしい思いをすることのとえ。

国語 一一三	第三学年及び第四学年の内容 ことわざ	名前	年	組	番	取り組んだ日 月	日
-----------	-----------------------	----	---	---	---	-------------	---

次のことわざの意味としてふさわしいものをあとのアからオの中から選び、( ) の中に書きましょう。

- ① 百聞は一見にしかず ( ) ( ) ( ) ( ) ( )
  - ② 頭かくしてしりかくさず ( ) ( ) ( ) ( ) ( )
  - ③ 無くて七かせ ( ) ( ) ( ) ( ) ( )
  - ④ 犬も歩けばぼうに当たる ( ) ( ) ( ) ( ) ( )
  - ⑤ 二階から目薬 ( ) ( ) ( ) ( ) ( )
- ア でしゃばると思ってもみないこまったことにあったり、何でもい  
いからやってみれば思わぬ幸運にあったりすることのたとえ。
- イ 思うようにならず、効きめのうすいことのたとえ。
- ウ 人はだれでも、多かれ少なかれ、くせがあるということのたとえ。
- エ 百回人から聞くより、一度でも自分で見たことがある方が 確か  
なことのたとえ。
- オ 一部の悪さを何とか隠して、全体を隠したつもりでいるおろかさ  
のたとえ。

国語 一一四	第三学年及び第四学年の内容 ことわざ	名前	年	組	番	取り組んだ日 月	日
-----------	-----------------------	----	---	---	---	-------------	---

次のことわざの意味としてふさわしいものをあとのアからオの中から選び、( ) の中に書きましょう。

- ① のどもと過ぎれば熱さを忘れる ( ) ( ) ( ) ( ) ( )
  - ② 転ばぬ先のつえ ( ) ( ) ( ) ( ) ( )
  - ③ 鬼に金ぼう ( ) ( ) ( ) ( ) ( )
  - ④ えびでたいをつる ( ) ( ) ( ) ( ) ( )
  - ⑤ 帯に短し たすきに長し ( ) ( ) ( ) ( ) ( )
- ア 強い者に武器を持たせれば、さらに強くなるということのたとえ。
- イ どんなに苦しいことでも、その時を過ぎると、そのつらさを忘れ  
てしまうことのたとえ。
- ウ ちようどでなく長すぎたり短すぎたりして、何の役にも立たな  
いことのたとえ。
- エ 失敗しないように前もって用意をすることのたとえ。
- オ 小さな元手で、大きな利益を得るといふことのたとえ。

国語 三十一 (書き)	第三学年の漢字(書き)	名前	年	組	番	取り組んだ日	月	日
-------------------	-------------	----	---	---	---	--------	---	---

次の文の□に当てはまる漢字を書きましょう。  
送りがなにも気をつけましょう。

① □の□の□。

② □は、□もなく、□もない。

③ 残□がまだまだきびしく、□が□。

④ 冬の□におおわれる。

⑤ □スープをいただく。

⑥ □、□は□にあつた。

国語 三十二 (書き)	第三学年の漢字(書き)	名前	年	組	番	取り組んだ日	月	日
-------------------	-------------	----	---	---	---	--------	---	---

次の文の□に当てはまる漢字を書きましょう。  
送りがなにも気をつけましょう。

① 彼が□その□が□を□。

② 彼の□はとても□、□とができない。

③ □は、□情でベンチに□いった。

④ □とは□に□ことです。

⑤ 大島行きの□は、□を□。

国語 三十三 (書き)	第二学年の漢字(書き)	名前	年	組	番	取り組んだ日	月	日
-------------------	-------------	----	---	---	---	--------	---	---

次つぎの文ぶんの□あに当あてはまる漢かん字じを書かきましよう。  
送おくりがなにも氣きをつけましよう。

① 「いんしゅうてん」のんだ きん しとは、お さけ  
あとに くるま うんてん しては いけ ない  
という こと です。

② きゅう に とまった ので ころん で しま った。

③ いんりようすい を はこぶ 。

④ じてんしゃ であ ら かわ ぞい を サイ クリ ン グ す る。

⑤ みんな で い つ し よ に うん どう し た。

国語 三十四 (書き)	第二学年の漢字(書き)	名前	年	組	番	取り組んだ日	月	日
-------------------	-------------	----	---	---	---	--------	---	---

次つぎの文ぶんの□あに当あてはまる漢かん字じを書かきましよう。  
送おくりがなにも氣きをつけましよう。

① は は はん たい が わ の ほど う を あ る い て い ま す。

② ビー ト を も と の ば し よ に か え す 。

③ い え の ち か く の さ か は と と も も き ゆう で す。

④ いぬ ご や を つ く る た め に い た を か っ て き ま し た。

⑤ この げ つ よう び は ん の へ ん き ゃ く ひ は ら い し ゅう の げ つ よう び です。

国語 三十五 (書き)	第二学年の漢字(書き)	名前	年	組	番	取り組んだ日 月	日
-------------------	-------------	----	---	---	---	-------------	---

つぎ ぶん  
次の文の□に当てはまる漢字を書きましょう。  
送り(おく)がなにも気(き)をつけましょう。

① ギョウザの□を□。

② □を□ために□にならぶ。

③ この□は、わたしには□ます。

④ □なみうち  
ぎわにずっといたから□ふが□あかく  
なつた。

⑤ □たいふう  
が□ちかづき  
□は  
ろう  
□ちゅうい  
ほうが  
□でた

国語 三十六 (書き)	第二学年の漢字(書き)	名前	年	組	番	取り組んだ日 月	日
-------------------	-------------	----	---	---	---	-------------	---

つぎ ぶん  
次の文の□に当てはまる漢字を書きましょう。  
送り(おく)がなにも気(き)をつけましょう。

① □しよくぶつ  
が、□はたけ  
□ね  
をはっている。

② □は  
がおいしげっている。

③ □はたけ  
に□だいこん  
を□うえる。

④ □やま  
の木々がみごとにこう□しよう  
している。

⑤ おにごっこで、□せ  
かげにかくれる。

国語 三十七 (書き)	第二学年の漢字(書き)	名前	年	組	番
-------------------	-------------	----	---	---	---

取り組んだ日	月	日
--------	---	---

次の文の□に当てはまる漢字を書きましょう。  
送りがなにも気をつけましょう。

① □すきな□を、おぼえている。

② □きたあめを□。

③ □がよくなるまで、しずかに□。

④ □どれくらい□を□できるか□。

⑤ □でかけっこをして□になる。

国語 三十八 (書き)	第二学年の漢字(書き)	名前	年	組	番
-------------------	-------------	----	---	---	---

取り組んだ日	月	日
--------	---	---

次の文の□に当てはまる漢字を書きましょう。  
送りがなにも気をつけましょう。

① □であげるのには□がある。

② □を□。

③ この□の□を□。

④ □性ペンで□に□を□。

⑤ □に□告のとどけをだす。

⑥ □にいのる。

⑦ □へのさんかを□。

国語 六一	第三学年及び第四学年の内容 漢字と仮名	名前	年 組 番	取り組んだ日 月 日
----------	------------------------	----	-------	---------------

1 漢字を使うことで読みやすい文になります。次の文を、あとの□の中の漢字を使って書き直しましょう。

① ははは、ははじようぶです。

② きしやは、きしやでした。

③ しやないでしやないのひとにこえをかけた。

④ にわにはにわにわとりがいる。

汽車、社内、記者、母、声、  
歯、人、車内、庭、二羽

2 次の文を絵にあうように、あとの□の中の漢字を使って書き直しましょう。

① わたしはいしやになりたい。



② みんなははしている。



歯医者、医者、  
知って、走って、

国語 六一	第三学年及び第四学年の内容 漢字と仮名	名前	年 組 番	取り組んだ日 月 日
----------	------------------------	----	-------	---------------

1 漢字を使うことで読みやすい文になります。次の文を、あとの□の中の漢字を使って書き直しましょう。

① がががいがいのえをかいだ。

② きゅうにきゅうかいでたちどまった。

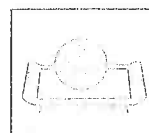
③ かがいがいとかたかった。

④ さんちゅうでさんちゅうのせいとにあった。

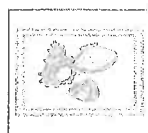
止まった、海外、絵、急、  
意外、立ち、画家、貝、九階、  
会った、三中、生と、山中

2 次の文を絵にあうように、あとの□の中の漢字を使って書き直しましょう。

① みんなはかっている。



② きょうかいのえをみた。



買って、計って、  
絵、今日、見た、  
見た、絵、教会

国語 六一三	第三学年及び第四学年の内容 漢字と仮名	名前	年	組	番	取り組んだ日 月	日
-----------	------------------------	----	---	---	---	-------------	---

次の文章は、全てひらがなで書かれているため、分かりづらい文章になっています。後の□の中の漢字を使って書き直しましょう。

あすのさんじかんめのうんどうかいのれんしゅうは、さんねんせいといっしょにこうていでおこないます。すいとうをもつてクラスごとにしゅうこうをしてください。

--	--	--	--

校庭 明日 運動会 練習 集合 行  
水 三年生 持 三時間目

国語 六一四	第三学年及び第四学年の内容 漢字と仮名	名前	年	組	番	取り組んだ日 月	日
-----------	------------------------	----	---	---	---	-------------	---

次の文章は、全てひらがなで書かれているため、分かりづらい文章になっています。後の□の中の漢字を使って書き直しましょう。

きのう、はむらしへしやかいかけんがくにいき、たまがわきょうだいのぞうをみました。このふたりは、さんびやくろくじゅうねんほどまえにみずぶそくでこまっていたえどのひとたちをたすけるために、たまがわじょうすいをつくりました。

--	--	--	--

前 羽村市 玉川兄弟 行  
社会科見学 見 三百六十年 二人  
昨日 助 人 水 玉川上水



国語 十一	第三学年及び第四学年の内容 主語、述語、修飾語	名前	年	組	番	取り組んだ日 月	日
----------	----------------------------	----	---	---	---	-------------	---

次の文の主語、述語、修飾語の部分にそれぞれ線を引き、主語の線の横には「し」、述語の線の横には「じ」、修飾語の線の横には「しゅ」を書き込みましょう。

例

① わたしは、校庭で遊びました。

② 鉛筆が、机の上にある。

③ ビスケットもおいしいよ。

④ 高学年の教室は、とてもしずかだ。

⑤ オリンピック、東京に決定。

国語 十一	第三学年及び第四学年の内容 主語、述語、修飾語	名前	年	組	番	取り組んだ日 月	日
----------	----------------------------	----	---	---	---	-------------	---

次の文の主語、述語、修飾語の部分にそれぞれ線を引き、主語の線の横には「し」、述語の線の横には「じ」、修飾語の線の横には「しゅ」を書き込みましょう。

例

① 富士山が見える。

② ぼくは、毎日新聞を読む。

③ 消しゴムが、つくえから落ちた。

④ しんかんせんに乗るのが楽しみです。

⑤ 弟は毎日おふろをそうじする。

国語 十一三	第三学年及び第四学年の内容 主語、述語、修飾語	名前	年	組	番
取り組んだ日					
					月
					日

次の文の主語、述語、修飾語の部分にそれぞれ線を引き、主語の線の横には「し」、述語の線の横には「じ」、修飾語の線の横には「しゅう」を書き込みましょう。

- ① 明日は きっと 晴れる。
- ② 大切な 本が なくなった。
- ③ 運動会が とても 楽しみだ。
- ④ 妹も うれしそうに 笑った。
- ⑤ ぼくは つかれて たおれそうだ。

国語 十一四	第三学年及び第四学年の内容 主語、述語、修飾語	名前	年	組	番
取り組んだ日					
					月
					日

次の文の主語、述語、修飾語の部分にそれぞれ線を引き、主語の線の横には「主」、述語の線の横には「述」、修飾語の線の横には「修」を書き込みましょう。

- ① 小鳥が 二わ 木の上 に いる。
- ② ライオンが えさを たくさん 食べる。
- ③ パンダは いまにも ねそうだ。
- ④ さるが 親子で 遊ぶ。
- ⑤ 牛は のんびり 歩く。

国語 十四—二	第三学年及び第四学年の内容 「だれが」「いつ」「どこで」「なにを」「どのように」「なぜ」	名前	年 組 番	取り組んだ日 月 日
------------	---	----	-------	---------------

次の文章を読み、あとの問題に答えましょう。

英夫の家の近所には、小さな町工場がならんでいました。英夫は、しよく人さんの作業を見るのが好きで、学校から帰るとよく町工場に行きました。

また、英夫はベーゴマ遊びが大好きでした。負けてしまうと相手にベーゴマを取られてしまうので、なんとしても強いベーゴマを作ろうと必死でした。

ある日、英夫は、ベーゴマを強くするために、しよく人さんから材料を分けてもらい、早くしようと手を加えました。

そう思っただけで出ようとしたとき、三びんと成りの五郎が家をたずねてきました。五郎は、体が弱くて学校を休みがちな子でした。

学校に行くことができないため、英夫に勉強を教えてほしかったのです。

※東京都道徳教育教材集「心しなやかに」の

「あの日をさかんに」一糸川 英夫」より

- ① だれが登場していますか。( ) ( ) ( )
- ② どこでの話ですか。( ) ( ) ( )
- ③ 英夫は何を作ろうと必死でしたか。( ) ( ) ( )
- ④ 五郎はなぜ英夫をたずねてきたのですか。( ) ( ) ( )

国語 十四—二	第三学年及び第四学年の内容 「だれが」「いつ」「どこで」「なにを」「どのように」「なぜ」	名前	年 組 番	取り組んだ日 月 日
------------	---	----	-------	---------------

次の文章を読み、あとの問題に答えましょう。

絹枝は、自分がいつゴールに入ったのかわかりませんでした。体力を使い切って、自分の力で立ち上がることもできません。日本の二人の選手に体をささえられながら、なんとかフィールドをい動しました。おうえんしていた人々は、その絹枝のすがたに感動してなみだし、心からはく手をおくりました。

絹枝の女子八百メートル走決勝の結果は、二位でした。日本人女せいで初めてのオリンピックメダリストがたん生したしゆん間でした。絹枝のこれまでの努力がむくわれたのです。しかも、絹枝の記録はそれまでの世界記録を大きく上まわるものでした。

国旗がポールにあげられたとき、絹枝は、国旗を見つめて泣きじやくりました。ついに、絹枝の悲願は達成されたのです。

※東京都道徳教育教材集「心しなやかに」の

「ワンダフル・ヒトミ」一人見 絹枝」より

- ① 日本人女せいで初めてのオリンピックメダリストになったのはだれですか。( ) ( ) ( )
- ② 絹枝は日本の二人の選手にどのようなようにされながらい動したのですか。( ) ( ) ( )
- ③ 絹枝は何を見つめて泣きじやくりましたか。( ) ( ) ( )
- ④ おうえんしていた人々は、なぜ心からはく手をおくったのですか。( ) ( ) ( )

国語 十二	第三学年及び第四学年の内容 辞書	名前	年	組	番	取り組んだ日 月	日
----------	---------------------	----	---	---	---	-------------	---

① 次の言葉が辞書に出てくる 二 次の文中の 〃 の言葉を辞書  
 順番を ( ) の中に書きまし で調べると、①③の意味が書か  
 れていました。この文中の 〃 の

① 算数 (2)

国語 (1)

理科 (3)

油類 ( )  
 書籍 ( )  
 人工 ( )

③ 白夜 ( )

冷や汗 ( )  
 百貨店 ( )

④ クリアー ( )

くりあげる ( )

クリーニング ( )

取り組んだ日  
月 日

二 次の文中の 〃 の言葉を辞書  
 で調べると、①③の意味が書か  
 れていました。この文中の 〃 の  
 言葉の意味として適切なものを  
 選び、番号をマル(○)で囲みま  
 しょう。

責任をもってやりぬくと決め  
 先仕事なので、最後までふんばる。

辞書に書かれていた意味

- ① 足に力を入れてふみこたえる。
- ② 他人の言うことにくつしたり  
 しないで、どこまでも自分の考え  
 を主張する。
- ③ 気力を出してたえる。こらえる。

国語 十二	第三学年及び第四学年の内容 辞書	名前	年	組	番	取り組んだ日 月	日
----------	---------------------	----	---	---	---	-------------	---

① 次の言葉が辞書に出てくる 二 次の文中の 〃 の言葉を辞書  
 順番を ( ) の中に書きまし で調べると、①③の意味が書か  
 れていました。この文中の 〃 の

① ふかい ( )

ふとい ( )

ひろい ( )

② 体積 ( )  
 体溜 ( )  
 体験 ( )

③ 船長 ( )

全体 ( )  
 先生 ( )

④ ケーキ ( )

景気 ( )

ゲーム ( )

取り組んだ日  
月 日

二 次の文中の 〃 の言葉を辞書  
 で調べると、①③の意味が書か  
 れていました。この文中の 〃 の  
 言葉の意味として適切なものを  
 選び、番号をマル(○)で囲みま  
 しょう。

以前からほしかった洋服が、い  
 つの間にか二千円を少しきる値  
 段になっていた。

辞書に書かれていた意味

- ① 刃物などを使って分け  
 る。
- ② やめる。うち切る
- ③ ある数量を下回る。